



展示場へ行こう!

4F

サイエンスタイムトンネル

図1は展示場4階の「原始人」と「アインシュタイン」。有数の記念撮影スポットですが、「彼ら」には大事な仕事があります。

一般相対性理論は宇宙の歴史を解くための基礎理論で、大天才のアインシュタインが提唱したことで有名です。しかし、アインシュタインが一人で築き上げたものではありません。原始人の火起こしなど、人類が太古から



図1 原始人とアインシュタイン

脈々として積み重ねてきた知見があつての大発見です。たとえば、図2がこの事を無言で語りかけています。これは「サイエンスタイムトンネル」にある資料の一つで、大英博物館にある実物から複製したメソポタミアの境界石(B.C.1000頃)。



図2 メソポタミアの境界石

上部に太陽と月、そして、中央右にさそり座が描かれています。大昔の人々も星を観察していた証拠です。人類は天上や地上で起こる様々な現象を観察し、一步一步自然界の理解を深めてきたのです。その結果、ガリオやケプラー、ニュートンの大発見が生まれ、その後の電気の発見などを土台にして一般相対性理論が完成したのです。技術の進歩も相まって、近年、自然界に対する理解は爆発的な勢いで進化しています。

「サイエンスタイムトンネル」はこのような科学の歴史を体験型展示と資料とで綴る展示コーナーです。「原始人」と「アインシュタイン」がその入口で皆さんを迎えています。

齋藤 吉彦(科学館学芸員)